



第9回 佐野藤三郎記念 食の新潟国際賞 受賞者決定！

世界各国から多数の推薦

第9回食の新潟国際賞は昨年9月～12月までの応募期間に世界14ヶ国から58名という多数の推薦応募を頂きました。今年5月14日に選考委員会(委員長 唐木英明)が開催され、各賞の受賞候補者を複数選出し、理事会に答申しました。その結果、理事会において4賞、4名の受賞者が決定しました。なお、表彰式は11月24日(火)に開催されます。

大賞＝ 安藤 宏基 氏(日本)

世界の食の問題解決への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 1,000万円



安藤 宏基 氏
NPO法人国際連合世界食糧計画WFP
協会会長
日清食品ホールディングス株式会社
代表取締役社長・CEO

特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 会長
日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO

○ 受賞理由：

国際連合世界食糧計画WFP活動の支援と普及のため、民間からの寄付や支援の輪を広げた。

紛争や災害の緊急支援等、多角的な食料支援活動を推進し、世界の飢餓や貧困問題解決に大きく貢献した。

国連WFP協会会長として、WFP活動への支援と普及のため、民間からの多額の寄付や支援の輪を広げた。また、紛争や自然災害への緊急支援として、学校給食の提供や、被支援者の現金給付金など、多角的な食料支援活動を推進している。長年にわたる積極的な活動と理念は世界の飢餓問題の解決と人道支援に多大な貢献をしている。

また、カップヌードルのパイオニア企業の代表として、食のグローバル化や多様化・国際化を牽引した功績は顕著である。

○ 主な活動・研究について：

紛争や自然災害により困難な状況にある地域への緊急支援を実施し、ウクライナ、シリア、ミャンマー、スーダンなどへの寄付支援活動を主導。また、学校給食の提供や被支援者の生活再建を中長期的に支える現金給付支援など、多角的な食料支援活動を推進する国連WFPの活動を日本国内に広く周知し、民間による寄付や支援の輪を広げる基盤づくりに尽力している。



○ 受賞コメント：

このたびは、栄えある賞を賜り、誠にありがとうございました。

国連WFP協会会長としてこのような栄誉ある賞を頂戴できましたことを、大変光栄に存じます。

選考に携わってくださった皆さまをはじめ、日頃よりご支援を賜っております皆さまに心より感謝申し上げます。

国連WFP協会は、飢餓のない世界を目指して活動する国連WFPの国内における公式支援窓口です。ただし、その役割は食を届けることへの支援にとどまりません。困難の中にある人々に手を差し伸べる大切さを伝え、寄付や支援を通じて、平和への責任や災害時の負担を分かち合う「共生」の気持ちを社会に広げていくことも重要な使命であると思います。

恵まれた立場にある人が、自らの幸せだけでなく、苦しむ人々の命と尊厳に思いを寄せる。その優しい気持ちが広がることで、飢餓は最小化できると信じています。

国連WFP協会が目指すのは、支援を続ける未来ではありません。飢餓のない世界を実現し、いつか自らの役目を終えられる日を迎えることです。その日まで、「共生」の心を育み続けたいと考えています。

佐野藤三郎特別賞＝ トリストラム・スチュアート 氏(英国)

地域の国際交流や研究での顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



環境保護団体「Feedback」(現Foodrise)共同設立者
ToastBrewing創業者

○ 受賞理由 :

フードロス問題の実態を告発し、世界のフードロスへの意識を高め、国連のSDGs策定に影響を与えた。

フードロス問題解消への先駆者として、世界的な活動を評価する。

グローバルな食料サプライチェーンにおけるフードロスの実態を告発し、世界的な注目を集めた。

NPO「Feedback」を設立し、スーパーマーケットや農家で廃棄される食品をスूपにして振る舞うイベントを世界各地で開催し、市民の意識向上のための活動に取り組んでいる。

今なお世界的課題であるフードロスを先進国、途上国ともに解決するために行動している。

この活動は国連のSDGsの策定に大きな影響を与えた活動家である。

○ 受賞コメント :

佐野藤三郎特別賞を受賞することとなり、大変光栄に存じます。この思いがけない栄誉を賜りましたことに対し、選考委員会ならびに理事会の皆様にご心より御礼申し上げます。

また、このたび評価していただいた活動は、世界中で多くの人々が力と心を合わせて取り組んできた共同の成果であることを申し添えたいと思います。私は過去30年にわたり食品ロス問題に取り組んできましたが、その間、世界で最も刺激を与えてくれる活動家、起業家、企業のリーダー、政策立案者、シェフ、農業者、政府関係者、そして国連環境計画(UNEP)や国際連合食糧農業機関(FAO)をはじめとする国際機関の方々とともに活動できたことを、大変光栄に感じています。

世界的なムーブメントを築くことができたのは、私がすべての人の心の中に存在すると信じている「仲間意識(companionship)」の精神があったからです。“Com”はラテン語で「共に」を意味し、“pan”はラテン語で「パン(食べ物)」を意味します。つまり companionship とは、「共に食を分かち合う精神」を表しており、世界中のあらゆる社会において、人々の結びつきや社会の一体感を育むために受け継がれてきたものです。それは、人々を結びつける食の力の象徴でもあります。私たちは食を分かち合うことで友情を育み、愛情の絆を深め、そして人類が母なる地球の恵みによって生かされているという根源的なつながりを認識するのです。

この賞をいただくことは、食品ロス削減に取り組むすべての関係者にとって、自らの努力が評価され、世界中の人々の共感を得ていることを実感できる大きな励みとなるでしょう。

実際、私の著書『Waste: Uncovering the Global Food Scandal』の最終章「希望の島々(Islands of Hope)」でも述べたように、私は、日本、そして日本人が大切にしてきた「もったいない」の精神こそが、食べ物の尊さ、さらには生命そのものの尊さを私たち一人ひとりに気づかせ、行動へと駆り立てる力を持っていると信じています。それは、私たちすべてが大切に守り育てる責任を負っている価値観です。

このたびの佐野藤三郎特別賞が、「もったいない」の精神、そしてその精神を体現し育んできた日本の人々の政策や実践に世界の注目を集め、日本文化を支えるこの大切な理念がさらに広く理解される一助となることを願っています。



21世紀希望賞＝ 木下 政人 氏(日本)

発展と成果が期待される研究・活動 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



京都大学大学院 農学研究科
応用生物科学専攻 海洋生物科学講座 准教授

○ 受賞理由 :

世界初のゲノム編集技術を魚類に実用化し、マダイやトラフグの養殖に成功した第一人者である。

今後の世界の食糧問題、環境保全分野でのSDGsに大きく貢献する研究活動である。

1993年から魚類の遺伝子改変技術に取り組み、ゲノム編集技術をいち早く魚類に応用した。

2014年に筋肉量が増大したマダイ、トラフグ系統及び高成長トラフグ系統を短期間で完成させた。

世界初のゲノム編集技術を用いた魚類生産を実用化した研究活動は、世界の食糧問題、環境保全分野でのSDGsに貢献するものである。

○ 受賞コメント :

私は、大学で水産に関わる研究を行っており、社会貢献したいと常々考えておりました。

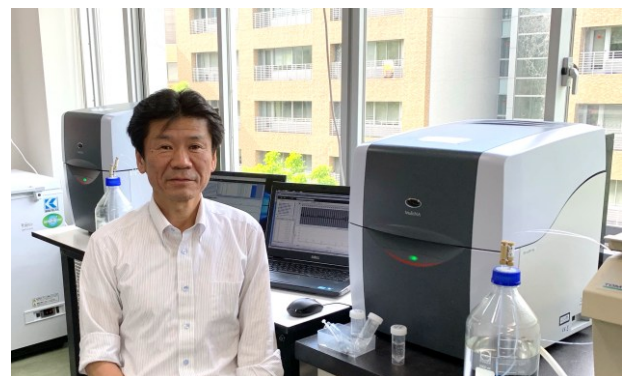
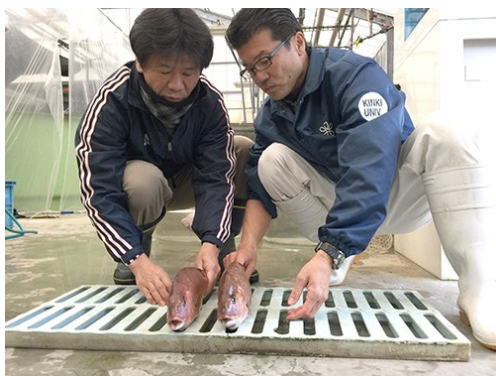
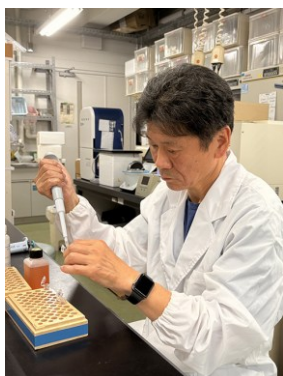
この度、第9回食の新潟国際賞「21世紀希望賞」を賜りましたことは大変光栄であり、関係各位に心から感謝申し上げます。また、私の研究を多方面から支えてくださった方々にも、この場をお借りして感謝申し上げます。

近年、ヘルシーな食材として水産物が世界中で注目されており、世界中で養殖生産高が年々増加しています。一方、一時は世界一の水産大国であった日本では、小規模経営・高齢化・安価な水産物の輸入などのため、水産業が厳しい状態に追い込まれています。加えて、海水温の上昇など気候変動による打撃も深刻です。このような状況を打開し、日本の水産業(特に養殖業)を復興させるには高品質で独自性の高い養殖魚品種を作ることが必要です。

ところが、新品種を作り出すには従来法では10年単位の長期間を必要とします。ノーベル賞受賞の対象となったゲノム編集技術を活用することで、これまでの品種改良法と同様に外来遺伝子を挿入することなく、迅速に計画的に優良品種の作製が可能となりました。

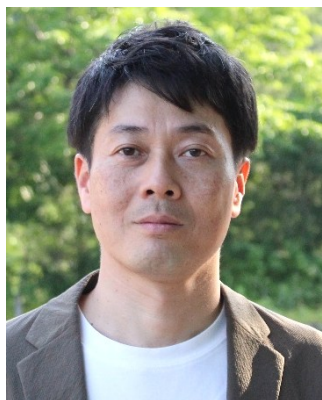
これまでに私たちの研究グループでは、この技術(品種改良加速技術と呼ばれます)を用い、可食部の増加したマダイや成長が早くなったトラフグなどを開発し、商品として販売を開始いたしました。この技術は水産物だけでなく、農畜産物にも大変有効な手法です。

今回の受賞を励みに、今後も、国や地域を越えて連携し、新たな価値を創造し、未来の一次産業を支える研究成果や技術の開発に取り組んでいきます。



地域未来賞＝ 松本 将史 氏(日本)

新潟県内での食と農への顕著な貢献 1件 賞状、正賞(記念工芸品)、副賞 100万円



株式会社能水商店 代表取締役

○ 受賞理由 :

高校教諭時代、生徒と市場価値の低い鮭を利用して、魚醤「最後の一滴」を開発販売した。退職後、製造販売会社を立ち上げ、その収益を教育費として還元しながら、職場での学びと公立学校教育を融合した仕組みを構築。現在は、水産業のみならず多様な産業での就労を基盤とした通信制高校サポート校を開校し、新しい教育モデルを実践している。

新潟県立海洋高校で16年間にわたり水産加工や食品化学の教育と指導に携わった。市場価値の低い鮭を活用し、生徒と共に魚醤「最後の一滴」を開発販売し、地域課題の解決にも貢献した。退職後、能水商店を設立し、「最後の一滴」の販路を拡大し、収益の一部を教育費として生徒の活動に還元している。現在は、全国初ドイツの職業教育システムを基盤とする通信制「ライトシップ高等学院」を開校し、実際の職場での学びと学校教育を融合させる新しいモデルを始動させている。

○ 受賞コメント :

この度は、第9回食の新潟国際賞「地域未来賞」を受賞し、身に余る光栄に存じます。ご推薦者をはじめ、これまで私の活動を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

私の活動の原点は、新潟県立海洋高等学校(以下、海洋高校)の教員時代に地元の能生川を遡上するサケの有効利用を目指した取組です。最初は、産卵期サケ特有の臭気の研究を大学と共同で行う基礎的な研究をしていました。

しかし、その途中で授業の一環で鮭魚醤「最後の一滴」を開発すると、生徒たちの水産加工と販売を通じた職業能力と社会性の成長を支える基盤づくりが目標となりました。そして、海洋高校の外に生産施設と会計管理体制を整えることで、産学連携による実践的な専門高校の学びを持続可能なシステムとして構築することができました。

その後、高校教員を退職して産業界側から海洋高校の職業教育支援に関わることになりました。水産加工を学ぶ生徒たちの食品開発を完結させ、流通経路に乗るまでのサポートをしています。

また、サケの孵化放流事業を行う能生内水面漁業協同組合の代表として、新しいサケの放流方法「発眼卵放流」に水産増殖を学ぶ生徒たちと取り組むなど、地域課題を実践的な学びに昇華させる機会づくりも行っています。微々たるものではありませんが、私が手掛けたまちの特産品や雇用の創出は、若者が産業の論理を実践的に学べる仕組みを追求した結果としての副産物だと思っています。

現在は、さらに効率的な職業教育が展開できる日本初の本格的デュアルシステム(職業訓練と教科学習を並行するドイツの教育制度)を導入した広域通信制サポート校「ライトシップ高等学院」を運営しています。

食品産業のみならず、多様な業種に高校時代から就労できるこの仕組みは、個人の自己実現追求と地域産業の人材確保を両立する教育インフラとして、新潟発で全国に広めていく予定です。

この度の受賞は、鮭魚醤「最後の一滴」から始まる教育と産業の融合モデルの価値づけと今後の挑戦の拠り所をいただいたものと感じております。これからのたゆまぬ努力をお誓い申し上げます。



● 正賞「シュプリンゲン」

正賞として授与されるモニュメントは第22代文化庁長官、第9代東京藝術大学学長の宮田亮平氏によって製作されたものです。
宮田氏は佐渡市出身の世界的にも著名な金属工芸家でもあります。



● 第9回食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略・順不同)

職 名	氏 名	所属・職名
委員長	唐木 英明	食の信頼向上を目指す会 代表 / 東京大学 名誉教授
委 員	赤阪 清隆	前(公財)ニッポンドットコム 理事長 元 国連事務次長、国連日本政府代表大使
委 員	今野 正義	日本食糧新聞社 名誉会長 最高顧問
委 員	菊地 唯夫	ロイヤルホールディングス 代表取締役会長
委 員	高野 克己	東京農業大学名誉教授 / (一社)日本食品保蔵科学会 会長
委 員	西澤 直子	石川県立大学 参与 / 東京大学名誉教授
委 員	阿部 啓子	東京大学名誉教授 / (一社)バイオインダストリー協会 評議員
委 員	平沢 裕子	産経新聞社・編集企画部 記者
委 員	西脇 俊和	新潟県農業総合研究所 食品研究センター長
委 員	村山 伸子	新潟県立大学 教授

● 表彰式スケジュール

第9回国際賞表彰式は11月24日(火)に開催予定

第9回目を迎える食の新潟国際賞は11月24日(火)に新潟市の朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室(マリンホール)で開催いたします。是非多くの方からご出席いただきますようご案内申し上げます。

※ 下記スケジュールは現段階の予定です。

開催内容が変更(延期・中止)される可能性があります。あらかじめご了承ください。

主な行事	時刻(予定)	会場
表彰式	14:00～	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 4階 国際会議室 (マリンホール)
受賞者記念講演	15:00～	
受賞祝賀会・交流レセプション	17:30～	ホテル日航新潟 朱鷺の間



(第8回表彰式の様子)



(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)

● 特別会員

亀田製菓(株)
一正蒲鉾(株)
(株)第四北越銀行
(株)新潟日報社
亀田商工会議所
にいがた22の会
オイシックス(株)

(株)ブルボン
サトウ食品(株)
(株)栗山米菓
(株)新宣
(株)新潟クボタ
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会
亀田郷土地改良区
(株)エイケイ
NST新潟総合テレビ
五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟県信用組合
(株)DIPalette
(株)本間組
石本酒造(株)
(株)ミカサ
神山物産(株)
ハセガワ化成工業(株)
藤屋段ボール(株)
(株)タケショー
BSN新潟放送
新潟陸運(株)
(株)新潟食品運輸
月島食品工業(株)
(株)ニッポン関東支店
日本甜菜製糖(株)

(株)鳥梅
新潟工科大学産学交流会
(株)キタック
丸榮製粉(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部
TeNYテレビ新潟放送網
(株)栗田工務店
三和薬品(株)
松田産業(株)
セツカートン(株)新潟工場
東邦産業(株)
麒麟山酒造(株)
(株)加島屋
(株)日本フードリンク
(株)ディモルギア

UX新潟テレビ21
イカリ消毒(株)
新潟工科大学
(株)田中組
(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ひらせいホームセンター
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)エヌエスアイ
(株)トップライズ
(株)ウオシヨク
(株)ヤマダ
(株)新潟国際貿易ターミナル
(株)荏原製作所北陸支社
(株)せいだ
新潟医療生活協同組合

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常孝	田村 敏郎	杉本 克己
近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	坂田 武利	門脇 基二	大谷 勝男	佐藤 久栄
阿部 徳威	渡辺 昭雄	坪谷 利之	大沢 一衛	村山 久	大島 千春	野上 敏	山岸 信一
槇坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭	大越 斎
野口 正晴	酒井 定勝	松本 裕志	當野 篤	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修
望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一
渡邊 信也	大崎 新一	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	斎藤 幸広
田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊
古泉 幸一	清水 泰成	阿部 愛子	宮口 澄子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗	高橋 征男	高橋 克郎
田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春	秋山 正之	松川 忠史
濱野 剛	小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	北垣 大介	小林 哲也	岡田 茂久
遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹	岸田 良満	中村 健一
小林 宏志	柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗	小川 陽一	大日方 聡
宮下 好文	坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義
近藤 正	高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之	原島 徹	最上 正人
石田 勇介	佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	田中 弼	佐藤 浩晃	村山 和恵
小林 達	長谷川 久晃	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一	榊原 由貴
金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明	池田 一史	宮嶋 一博
駒形 正明	藤井 大三郎	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍	小野 隆樹	高橋 大介
伊藤 雅明	秋堂 春美	長谷川 克弥	田中 湖雄	牧 利幸	伊藤 正弘	早川 重男	樋口 正仁
伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政	小島 隆	高橋 昭博	高橋 眞代	峰尾 昌明
鈴木 春次	徳橋 隆行	佐野 史枝	松島 浩道	岸本 翼			